

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

2825号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>

与論島の農地、遠くは沖縄本島(鹿児島県与論町)



も く じ

随
想

「なくさみ」文化について

鹿児島県伊仙町長

大久保 明(12)

フ
ォ
ー
ラ
ム

ヘルスツーリズムの推進と地域振興

林野庁林政部木材産業課長 洲上 和之(4)

政
策

木材利用の拡大について

安倍内閣総理大臣等を訪問ー平成24年度補正・25年度予算について要請ー地方六団体(2)

活
動

「ひと・森・癒し 安芸太田」森林セラピーのまちー広島県安芸太田町(7)



離島の高校にエール

早稲田大学教授

宮口 侗 廸

昨12月中旬、初めて鹿児島県与論島を訪れる機会があった。こちらから見れば沖縄本島の一つ手前の島で、奄美群島最南端の地である。島は与論町の一町からなり、面積は約20km²、人口は約五五〇〇人足らずの島である。筆者はこのところ過疎地域における高校の存在意義についてささやかな研究費を確保して実態調査を行っており、すでにこの欄でも、島根県海士町の隠岐島前高校について語らせてもらった。過疎地域の中でも離島にあっては、通学条件が陸路とは大違いであり、高校があるかないかは大変な問題である。

幸い与論町には県立の与論高校があり、貴重な役割を果たしてきた。昭和42年に奄美大島の大島高校の分校としてスタートし、同46年には県立与論高校として独立した。中学も与論中学一校であり、その生徒のほとんどが進学する高校として、町教育委員会との協力のもとに取組みが推進され、平成18年に正式に連携型中高一貫校となったのはいわば自然の成り行きであった。生徒数は1学年50人強で、2クラスを何とか確保してきたのがこの数年の推移であ

るが、この5年間、この高校は驚くべき進学成績の上昇を実現してきた。なんと国立大学に15人程度の進学者を出しているのである。中学からの入試は、「ユンヌ(与論)学」といういわば地元にかかわるレポートと面接でほぼ全員入学であるから、学力の格差は大きい。この中でこれだけの成績を挙げるには、卓抜した教育体制がなければあり得ない。

何えは、朝7時30分からの朝課外授業、そして80分2コマの放課後課外授業には生徒全員が参加し、教員の熱意に込められている。これらの動きが地元での信頼を育て、かつては本土に進学していたような優秀な生徒が島にとどまるようになったことも、進学成績を押し上げた。ついていけない生徒のために中高の先生が二人で教える授業もある。先生方は大変かもしれないが、離島の宿舍生活のなかで、このように張り切って働くことが教員自らの成長に資すること、間違いないであろう。閉塞感の漂うわが国の中で、このように人の活力を育てる場があることを多くの人が知って欲しい。そして離島の高校に心からのエールを送りたい。

◎写真募集◎

表紙に掲載する写真を募集しています。採用者には、粗品を差し上げます。写真には撮影者の住所、氏名及び撮影場所・日時を明記して下さい。なお、採否は当方に一任願います。送り先：全国町村会・広報部

安倍内閣総理大臣等を訪問

―平成24年度補正・25年度予算について要請―



▲安倍内閣総理大臣（中央）（左が藤原会長）



▲菅内閣官房長官（中央）（左が藤原会長）



▲新藤総務大臣（中央）（右が藤原会長）

活 動

▶自由民主党 高村副総裁（右から3人目）河村選対委員長（右から2人目）細田幹事長代行（右から5人目）野田総務会長（右から4人目）竹下組織運動本部長（右）（左が藤原会長）



▶自由民主党 高市政務調査会長（右）（左が藤原会長）



▶自由民主党 土屋総務部会長（右）（左が藤原会長）



▶公明党 山口代表（右から2人目）井上幹事長（右）石井政調会長（右から3人目）（左が藤原会長）



地方六団体は1月8日、安倍新内閣の発足に伴い、安倍内閣総理大臣はじめ、菅内閣官房長官、新藤総務大臣、自由民主党及び公明党幹部を訪問、平成24年度補正予算及び平成25年度予算について要請活動を行った。本会からは藤原会長（長野県町村会長・川上村長）が出席した。

地方側は、25年度税制改正において、自動車取得税や重量税の廃

止を含めた見直しをする際には、代替財源を確実に確保すること、また、国家公務員に準じて、地方公務員においても給与引き下げの対応を求める議論に対し、地方はこれまで給与の独自削減や人員削減など既に国を上回る不断の行革を実施しており、地方において自主的かつ適切な対応が図られるよう、地方交付税総額の確保に十分配慮するよう要請した。

政策解説

木材利用の拡大について

林野庁林政部木材産業課長 淵上 和之

1. 森林を巡る状況

現在、我が国の森林は戦後植林したスギやヒノキが成熟期を迎えつつあり、利用可能な状態となっている。一方、平成23年の木材自給率は26・6%に過ぎず、木材需要量全体の減少もあり、有用な森林資源が山に眠っている状況にある。このような中、平成22年10月に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（公共建築物等木材利用促進法）が施行されたところである。

また、森林を取り巻く状況を見ると、環境問題、特に地球温暖化問題に対する関心が一層高まりを見せ、CO₂吸収源としての森林とカーボンニュートラルな木材の利用が注目されている。実際、京都議定書では、第1約束期間（2008～2012年）における我が国の温室効果ガスの排出削減目標6%のうち、実に約3分の2に当たる3・8%が森林によるCO₂の吸収量となっている。

さらに、平成23年12月に南アフリカ共和国で開催されたダーバン合合において、2013年からの京都議定書第2約束期間における伐採木材製品（HWP：Harvested Wood Products）の取扱いについて、こ

れまで木材は伐採時にCO₂排出とされていたが、伐採後も住宅や家具などとして利用されている間は炭素を蓄積・固定しているとみなし、廃棄した時点でCO₂排出とするルールが国際的に合意された。すなわち、木材の炭素貯蔵効果が世界的に認められた訳である。

2. 木材利用拡大の必要性

このような背景を受け、今後は木材をより大量に、かつ、より長期に使用していくことが肝要である。そのためには、人口動態から将来的に住宅着工戸数の大幅な増加が期待できない中、外材が主体の2×4住宅への国産材利用や公共建築物をはじめオフィスビルなどこれまで木造でなかった非住宅分野の木造化・内装木質化など新たな木材需要の拡大が必要である。

幸いにも、皆さまのご理解のもと、前述の公共建築物等木材利用促進法に基づく国の基本計画を受け、平成25年1月9日現在、全都道府県と全国約1、700市町村のうち874市町村と実に半数以上で基本方針を作成いただいているところである。今後は、もう一歩進めて具体的な成果を期待したい。

3. 木材利用拡大プロジェクト

さらに、最近では、炭や薪の人氣が再燃しているが、こうしたかつて木材が使われていた分野における木材回帰の動きや新たな分野への木材利用を一過性で終わらせることなく本格化させることが重要である。これについては次章で詳しく述べる。

林野庁では、現在、庁内に課を越えた体制でプロジェクトチームを作り、各方面への木材利用の拡大に向けた検討・取組を推進している。

元来、我々は無意識のうちに木に親しみと心の安らぎを感じている。それは、あらゆる資材に木目調というデザインが設定されているほか、擬木のように他資材でありながらあえて木に似せた工作物が多数作られていることから明らかである。

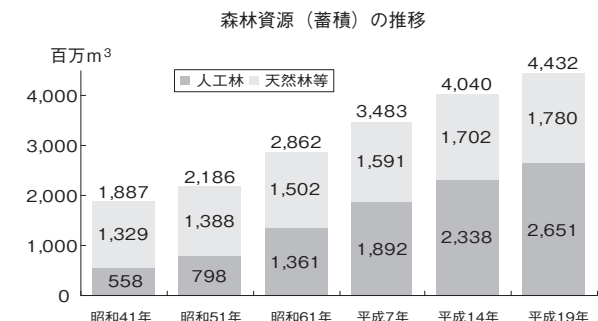
こうした資材は、様々な経緯で木材以外の素材に取って替わられた訳であるが、森林資源が充実し、木材利用に関する技術開発が進み、地方に元気がなくなってきたという今こそ、地域に賦存する最大の資源として、大いに活用していくべきである。

一例を挙げると、選挙用ポスター掲示板、土木用資材や工事用看板、目新しくは太陽光パネルの架台など

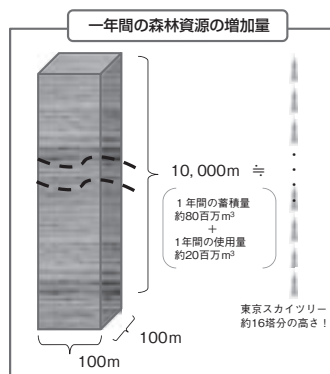
政 策

■参考1 森林の現状

森林の蓄積は約44億m³。人工林を中心に、毎年、日本の木材需要量に相当する8千万m³が増加。

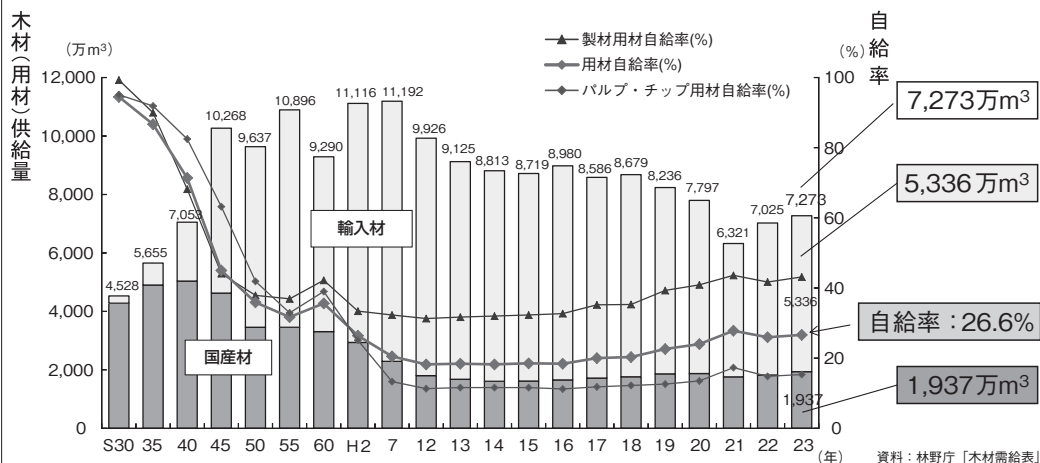


資料：林野庁業務資料



■参考2 木材（用材）需給の推移

我が国の木材自給率は近年低調であり、平成23年は26.6%。



ど、現実には大した手間や価格差なしに木材に置き換えられるものや場所は身近にたくさんあると考えられる。特に選挙用ポスター掲示板については、昨年末の衆議院選挙におい

て、東北地方を中心に地域の木材・合板に切り替えられたケースが多かったと聞いているが、こうした積み重ねこそが大切である。今夏には衆議院選挙、また、その他の選挙も

隨時あることから、その際は、ぜひ改めて選挙用ポスター掲示板への木材の利用について、御一考いただければ幸いである。

ところで、なぜ、今木材なのか。

それは、資源小国の我が国において

木材が数少ない世

界に誇れる資源、

それも地域資源で

あることに尽きよ

う。特に、近年、

森林内に伐り捨て

られた木材を使っ

た木質バイオマス

発電が注目される

など、新たな価値

が生じている。そ

の原料は、化石燃

料のように海外に

依存することなく

地域の山々から得

られ、その原料代

は、毎年産油国で

はなく国内の山村

地域に支払われる

ことから、地域が

潤い、山の整備に

もお金が回る。ま

た、木材は、伐採、

加工、流通、建設

等々幅広い雇用機会が確保され、地域経済の活性化も促進されるなど、まさにいい事づくめと言えよう。

4. 復興住宅への木材利用

木材利用に関し、差し当たっての

大きな需要は、東日本大震災で特に

被害の大きかった岩手県、宮城県、

福島県における災害公営住宅であろ

う。「東日本大震災からの復興の基

本方針」においても、「津波の危険

性の低い地域においては木造」とさ

れているが、建設に適した用地の不

足等から、実際の計画を見る限り、

木造以外のRC造等の中高層住宅が

多いように見受けられる。

そのこと自体はある面やむを得な

いことは重々理解するものの、それ

でも、あえて木造戸建て住宅の建設

の意義を述べさせていたきたい。

まず、第一に風景との調和である。

RC造の中高層住宅は、東北の美し

い自然や地域住民に溶け込みにくい

であろう。その点、木造住宅は、元々

東北地方における割合が高く、美し

い風景の創出に一役買っている。実

際、昨年11月に、福島の木造仮設住

宅群がグッドデザイン賞金賞を、ま

た、岩手の木造仮設住宅群が同復興

デザイン賞を受賞したのも、まさに

政 策

■事例① 選挙用ポスター掲示版への間伐材合板の利用



■事例② 工事用看板への間伐材の利用



くそのような理由も大きいと思われる。こうした受賞の意義を改めて問い直してみる必要がある。

第二に高齢者への配慮である。被災者の中には高齢者も多いと想像さ

れるが、そうした方々に住み慣れない中高層住宅での生活は多大なストレスとなることは想像に難くない。例えば、上階に住むと外出が億劫になり精神的にも参りやすい、上下左

右の部屋の音が気になる、といったことがあるだろう。もちろん現実には完璧な住環境など存在しないが、被災で傷ついた心を少しでも癒やすことのできる落ち着いた環境が望ましいのは言うまでもないであろう。

そして第三に中長期的なまちづくりのビジョンである。種々の事情により、10年後には少くない空き部屋が生じるかもしれない、そうするとRC造の中高層住宅は途端に輝きを失う。それは、かつて活気に溢れていた都市のニュータウンの現状を見ても明らかであろう。木造であれば、仮に人が住まなくなっても、移築や取り壊しが容易である。また、廃材はチップやバイオマス発電の燃料として再利用可能である。さらには、例えば、滞在型宿泊施設として活用することで、都市住民との交流拠点にもなり得る。こうした点からも、木造に一日の長があると思われる。

5. 終わりに

災害公営住宅でもそれ以外にも木材利用を進めていくに当たり、これまでと違ったことをやるのは、余分な労力が掛かり面倒なこともあるかもしれない。しかし、ここはぜひもう一手間、もう一工夫をお願いしたい。料

理でも一手間掛け、一工夫することでおもしろさが格段と増す。

また、地域の活性化には、地元の産業が互いに支え合い、共に高め合う相互扶助の精神が必要である。その源や潤滑油として木材は大変有効な資源と言えよう。さらに、木材は、他の資材が次第に輝きを失っていくのとは対照的に、使い込めば使い込むほど、月日が経てば経つほど深みと味わいを増す。

ぜひ知恵を絞り、木材を有効活用することにより、地域の文化や風土に調和した魅力的なまちづくりを行い、地域の活性化につなげていただければ幸いである。その際、一つの建物が必ずしもすべて木造の必要はなく、他の資材との混構造という手法もあるので、適材適所で柔軟な対応をお願いしたい。なお、木造建築物の設計、木材の調達等でお困りの際は、都道府県の林務担当部局または当課までご相談いただきたい。

「風景は思想である。イタリアやフランスは、損得にとらわれない昔ながらの風景を至る処に残している。風景は自然を取捨選択し、その国の人々が創り上げた作品なのだ。」(堀文子(画家))…その主役として木材の存在は不可欠である。

フォーラム

本町は、広島県の西北部に位置し、国の特別名勝である三段峡、恐羅漢山や深入山をはじめとした美しい山容を誇る西中国山地国定公園を有する、豊かな自然環境に恵まれた小さな町です。町の南側は広島市に接しており、広島市中心部から直線距離にして約30km、中国自動車道・広島自動車道・広島高速4号線（広島西風新都道路）の利用により、自動車の移動で約1時間の圏内にあります。このため、中山間地域

【町の概要】



現地レポート
町村独自の
まちづくり

ヘルスツーリズムの推進と地域振興

「ひと・森・癒し 安芸太田」森林セラピーのまち

にありながらも広島都市圏の観光・レクリエーションエリアとして、都市住民との交流が多い地域です。

【町の経緯と歴史】

平成16年10月1日、私たちの新しい町「安芸太田町」が誕生しました。

安芸太田町の「安芸」は「安芸の国」を意味します。「安芸」の名称は日本書紀（720年）の中で「安藝」の国名が初めて登場し、また風土記（出雲風土記と推察される733年）には「四方の貢物、飽き足れり、因て飽國（あきのくに）と名けらる」と記されているようです。一方、「太田」は、本町を源流域とし、広島市を経て瀬戸内海に注ぐ太田川から名を取っています。

【未来戦略会議の立上げ】

安芸太田町は、平成16年10月の合併以降、地域活性化に取り組んでまいりましたが、少子高齢化による人口減少は歯止めがかからず、毎年100人以上の



△癒しの森でセラピー体験

フォーラム

人口減少が続き、平成24年4月には、合併時に約9,000人であった人口が7,300人余となり、町の存続の危機ともいえる状況となっています。

そのため、町では、平成22年度に町の未来戦略を構築するため、官民協働による「未来戦略会議」を立ち上げました。

具体的には、町内にある地域資源【人材・観光資源・農林水産物】を生かして、「楽しく健康的に生活できる地域社会の構築」と「地域産業の再生・活性化」を目指したプロジェクトを検討・実施していくものとし、町内の個人・関係団体の実務者で組織した3部会（集落再生・町民活力向上部会、観光再生・情報発信力強化部会、産業再生・新産業創生部会）において、数十回にわたる活発な議論が重ねられ、平成23年2月、早急に取り組むべきまちづく

り事業について提言を受けました。その結果、「健康・癒し」をキーワードとした安芸太田町ブランドの確立をめざすこととしました。

**観光振興の主要な取組み
(ヘルスツーリズムを中心として)**

平成23年4月、観光再生・情報発信の体制強化策として町の玄関口、中国自動車道戸河内IC出入口にある道の駅「来夢とごうち」に、町観光協会と併設して商工観光課を新設するとともに、町観光協会の事務局長を全国公募により採用し、地域ブランドや観光情報・定住情報などの効果的なプロモーションを実施する仕組みづくりや人材の育成に取り組ましました。

平成23年7月には、官民協働のヘルスツーリズム推進協議会を発足し、「森林セラピー」、「田舎民泊体験旅行」による誘客と交流の仕

循環を目指すこととしています。

①森林セラピーの取組み**○広島県初の森林セラピー基地認定**

森林セラピーは、森の中に身をおき、歩行や森林内レクリエーションなどの方法によって、心身の健康維持・増進、疾病の予防を目指すもので、いわば「一歩進んだ森林浴」です。それを支える森林セラピー基地は、森の香りや空氣の清浄さ、美しい森の色彩や景観などが人の生理に及ぼす効果について医学実験による検証を終え、お墨付きを得ている癒しの森です。

安芸太田町は昨年3月24日、広島県初の森林セラピー基地に認定されました。

○森林セラピー®基地グランドオープン

人は、日々の都会のストレス社会に疲れたとき、森の中に身を置くことで、心身ともにリフレッシュし、再び明日を生きる糧を得ることが出来ます。

里山の案内人であるあきおおた里山ガイドが、4つのセラピーロードと多彩なセラピーメニューを用意して、来訪者の皆様の癒しの森にいます。

いよいよ本年5月25日と26日には、待望のグランドオープンを迎えます。現在、プログラムのさらなる構築や、里山ガイドの研修などを重ね事

業全体の魅力アップに取り組んでいます。

○4つのセラピーロードとモニターツアーの開催

「森林セラピーロード」として「恐羅漢山」「深入山」「三段峡」「龍頭峡」の4コースが認定を受けています。昨年9月から11月に開催したモニターツアーでは、森林セラピー体験のほか、町の地形や文化・歴史を活かした森林ヨガや陶芸体験、ハーブ石鹸づくりなどの体験メニューを提供してきました。

ツアー終了後に実施したアンケート結果を検証し、プログラムをブラッシュアップしていきます。

○あきおおた里山ガイドの育成

里山の案内人であるあきおおた里山ガイドは現在第1期、第2期が終了し46名が修了しています。今後里山ガイド100名の育成を目指しています。

○イメージ戦略

森林セラピーをアピールするためプロモーションビデオを作成し、ホームページで紹介しています。併せて、キャッチコピーとして「ひと・森・癒し 安芸太田」を決定し、「森の妖精」といわれる「ヤマネ」をモチーフにしたイメージキャラクター「もりみん」を紹介しています。

さらに、シンガーソングライターの丸本莉子さんを町のイメージシン

**安芸太田町森林セラピー基地
グランドオープン**

平成25年5月25日(土)～26日(日)



安芸太田町森林セラピー
イメージキャラクター：もりみん

フォーラム



△教育旅行で好評のラフティング体験

ガーに認定し、同じくイメージソングに認定した彼女の歌う「ココロ予報」は、町の情景を歌った「空」とカップリングされ、昨年12月5日にCDミニアルバムがリリースされました。

②体験型観光への取り組み

○修学旅行（教育旅行）誘致

昨年度広島県が民泊受入れに関するガイドラインを整備したことから、準備をスタートさせ昨年2月1日、官民合同の安芸太田町田舎体験推進協議会を立ち上げ、本格的に民泊引受け家庭募集及び教育旅行誘致

活動を開始しました。

当町民泊事業の最大の特徴は、スキームづくりこそ町において主導しましたが、運営は観光協会をはじめとする「町民」サイドが旧町村の枠を越えて連携し、主体的に取り組んでいる点にあります。と云うのも、民泊受入れを最終目的とするのではなく、民泊事業を活用して高齢者の活性化や地域の再生に繋げていこうという共通目的が、町と民泊に関わる町民の間で共有されているからです。その結果、民泊引受け家庭で組成する民泊部会では、毎回非常に熱心な話し合いがされ、既に2度の視察、2度の試験受入れ、7度の研修会を実施しています。

一方、教育旅行誘致も順調で本年に2校、本格受け入れ元年となる来年、平成26年度には5校の来町が決定しています。

小規模自治体単体としては極めて珍しいことですが、「安芸太田町人情田舎体験」として町民手づくりの民泊プロモーションビデオも完成させています。

都市部の学生の教育に資し、引受け家庭や地域の活性化を促進し、町への経済波及効果が非常に大きい民泊事業は、中山間地の過疎高齢社会においては、数少ない三方良しの事業であると考え、強力に推進しています。

③欧米富裕層の観光誘致へ

観光施策の効率化を考えた場合、教育旅行素材や人材をそのまま活用できる点においてメリットがあると判断し、町観光協会が中心となり欧米富裕層をターゲットとした観光誘致を開始しました。

特に、周辺市町が中国・韓国に注力していることから、広域的な補完戦略としても欧米系かつ富裕層に向けた取り組みが有効であると考えています。

手つかずの豊かな自然や素朴な文化に加え、「人情味溢れる」本町町民の心ばえを前面に押し出した「交流型体験」視点こそ、他市町との差別化が出来ます。加えて、欧米系訪問者数が非常に多い広島市と隣接している点においても有利な状況にあります。

昨年、町単独で1回、広島県との連携で3回、欧米系旅行会社やメディア招へいを実施し、特に、昨年9月実施した神楽ツアーは、単なる見学型では無く、地元神楽団との「交流」、そして「体験」型にした結果、好評を博しています。

本年1月には、西日本最南端ともいえる豪雪地帯である本町のマイナスイメージを逆手に取った雪かきイベント等による欧米人誘致も予定しています。このため、本年4月には外国人誘致の組織を立上げ、一層の取組み強化を図っていく予定です。

元氣なまちづくりへの挑戦

◆町民との協働のまちづくり

本町をはじめとする中山間地域においては、過疎・高齢化が猛スピードで進み、小規模集落においては自治機能の維持さえ困難となり、すでに一部集落では事実上の集落崩壊の状況を迎えています。こうした地域の生き残りは、まさに町の生き残りでもあるとの危機感から、本町においては、平成23年2月の未来戦略会議の提言を受け、集落再生への取組みに着手しました。具体的には、合併前の旧町村ごとに専従の地域担当職員を2名ずつ配置し、48自治振興会の相談相手となるとともに、地域住民自らその地域の5年後、10年後を見据えた地域づくり計画・地域マスタープランの策定を呼びかけたところ、平成23年度、24年度で3分の1の地域から手が上がり、町と地域の協働による取組みの結果、現在6地域で策定が完了し、残る地域でも熱心な話し合いが重ねられています。

策定した地域マスタープランの実施計画支援のため、『地域マスタープラン推進事業補助金・地域マスタープラントライアル事業補助金制度』を創設して財政支援を行うとともに、平成24年度からは地域おこし協力隊員4人を地域に派遣して、地域活性化のための

フォーラム

人的支援を図るとともに、周辺地域の自治機能維持のための『集落支援員派遣事業』にも取り組むこととし、併せて地域マスタープラン策定・実施計画支援のために、担当課である地域づくり課職員以外の一般行政職員全員による集落支援活動「地域サポーター制度」を本年度からスタートさせました。

また、協働のまちづくりは、町民と行政が、その理念や方向性を共有してはじめて実りあるものとなることから、昨年度1年をかけて町職員が作成した「協働のまちづくり基本方針たき台」をベースに、本年度は学識経験者や自治組織の代表者、住民代表等13人からなる協働のまちづくり基本方針策定委員会で議論が重ねられ、このほど『みんなでつづろうて（一緒にやる）まちづくり』を副題とした、安芸太田町独自の「協働のまちづくり基本方針」が完成しました。

◆協働による安芸太田町がめざす将来像について

自ら進んで地域の課題や問題を解決していく意欲や能力が育つことで、協働の担い手である住民、自治振興会、各種団体、事業者、行政のそれぞれの特性や能力を活かした取組みを行うことで、みんなが活き活きと安心して暮らせる安芸太田町をめざしています。

①ウルトラマラソンを通じた元気な地域づくり

毎年9月中旬に開催される、距離88km、高低差854mを制限時間13時間で走り切る「安芸太田しわいマラソン」は、ゴール直前に、アーチ式としては国内で2番目の高さ156mを誇る温井ダム（481（しわい）段を駆け上がるという過酷なウルトラマラソンで、昨年3回目を迎えました。

「しわい」とは、この地方の方言で「過酷、しんどい」などを意味します。人口7、300人余りの小さなこの町で開催されるこの大会には、今年も南は沖縄から北は北海道まで全国各地から400人余り、更には韓国からの参加もあり、国際色も出てきました。

特徴的なのは、大会を運営する実行委員会のメンバーのほとんどが、個人のボランティアということ。町も大会当日は大会車両として公用車と運転する職員を派遣しますが、関与もそこまで裏方に徹していません。それを補完しているのが、5kmごとに設置されたエイドステーション（無料休憩所）の運営や選手誘導員に携わるコース沿線・沿線外の自治振興会や町内事業所、消防団員の皆さんです。

コース沿線から寄せられる選手の名前を呼ぶ声援やエイドステーションでの地域のおもてなしは、選手の方々に大きな感動と勇気を与

え、すでに多くの固定ファンをつかみつつあり、地域の皆さんも毎年参加する選手との交流を楽しみに、開催日を心待ちにするなど、このウルトラ大会が元気なまちづくりにつながっています。

インターネットのマラソン専門サイトの評価では、昨年9月に全国で開催された数多いマラソン大会（ハーフ・フル・ウルトラマラソン）の中で、参加選手による総合評価第1位を獲得しました。全国に誇るべき大会になりつつあることを大変うれしく思います。

②日本一のウォーキング大会を目指して！

本町では、平成14年から、『生涯現役、死ぬときやばつくり、歩いて棺

桶まで』をスローガンにウォーキングを普及しています。

健診結果でメタボリックシンドローム「内臓脂肪型肥満」に該当する町民を対象に有酸素運動（ウォーキング）を指導し、運動習慣者になってもらい「歩いて棺桶まで」を目指しています。

また長期総合計画における健康促進プロジェクトでは、全国規模のウォーキング大会の開催を掲げ、平成19年度から毎年開催しています。第6回目を迎えた昨年の大会は、町内16の各種団体が結成された実行委員会方式により、10月6日（土）、10月7日（日）の2日間開催しました。メインとなる2日目の10月7日は、西中国山地国定公園の草原状の



△夜も空け切らぬうちから過酷なレースのスタート



△雄大な自然のもとで気持ち良くウォーキング

フォーラム



△話題を集めているAKOポスター

女たち（色々）わいっわいっ意見を出しながら町の活性化に取り組もうという趣旨が結成されました。

このAKOでは、町を元気にする活動第一弾として、広島県観光ブ

美しい山容を誇る深入山周辺に、30km・20km・10km・ミニトレッキングコースを設定し、昨年は新たに高齢の参加者や小さな子どもさんを連れた家族のための2kmコースを設けました。

当初参加者は1,000人を見込んでいましたが、他のイベントも重なったこともあり、最終的には846人の参加となりました。

参加者の感想は、「自然の景色を見ておいしい空気を吸えた」「スタッフの声かけに元気づけられた」「梅飴（商工会女性部）、漬物（女性会）、ぜんざい（ヘルスメイト）のおもてなしが素晴らしい」などの感想がたくさん聞かれました。

実行委員会の反省会では「団体が自ら関わり汗を流すことは、ともにウォーキング大会を支えている実感がある。これから手づくりの大会を盛り上げていこう」など多くの意見が出されました。

これからも、心を込めた手づくりの大会を合言葉に、日本一のウォーキング大会を目指し、たゆまぬ努力を重ねていきたいと思っています。

③町女性職員による手づくりのまちおこし ～乙女？たちの挑戦～

昨年10月下旬、町の活性化を考える町女性職員6人による特命チーム「安芸太田町魅力UP↑女性会議」を立ち上げたところ、わずかその10日後には、小さな町でも、元氣よく、楽しく、町を訪れる方々に「また来てみたい」と思っていただけのような「心からのおもてなし」に取り組んでみようと、町女性職員全員をメンバーとした『安芸太田町AKO』（AKO＝あがろ、こがろ）という女たち（色々）わいっわいっ意見を出しながら町の活性化に取り組もうという趣旨が結成されました。

ロモーション「おいしい!! 広島県」秋のキャンペーンとして11月末まで展開された県庁男性職員による『全力歓迎課!』の理念と精神に倣い、広島県の公認を得て町内10か所で地元町民の皆さんと共演する「おいしい! のお。安芸太田町」観光PR動画とポスターを、町観光協会や町内若手事業者等と協力して手づくりで作成しました。ポスターは、町内の各公共施設に掲示してPRしているほか、PR動画についてはインターネット上にアップし、ホームページからも見られるようにしたところ、各メディアからも大きな注目を浴びテレビや新聞等で大きく取り上げられました。

町民の皆さんからも、楽しそうな取組みで元氣があつていいと評価いただいています。AKOでは、結成以来、町内で開催されたイベントなどにボランティアで出演し、町のPRとおもてなしに取り組んでくれています。

このように、今本町は、新たなまちづくり、地域おこしの取組みが産声を上げつつあります。こうした取組みを活かしながら、今後ますます厳しい状況が予想される中山間地域の小さな町にあっても、心の温まるような元氣を発信し続けたいと思います。

安芸太田町長 小坂 眞治

新刊紹介

地域に飛び出す公務員ハンドブック
椎川 忍著

今井書店 定価1500＋税
電話085212412230

「常に現場主義であれ」、「理論よりも実践」、「公務員の最終ミッションを忘れるな」と説く公務員十戒。地域に飛び出し活躍するための具体的な実践方法や、あるものを活かし、地域を活性化させようとする地域おこし論。

本書は、著者自らが考案したこれらの項目を挙げ、地域に飛び出し、地域おこしを担っていく公務員の理想像に対し、意識面と実践面両方からアプローチしている。主体性と能動性、そして地域に対する経営意識を兼ね備えた公務員を理想像として提示する一方で、本書の内容は、公務員という枠を超え、社会人一般にあてはめることができ、日々の仕事に迫られる中で忘れがちな初心や目標を見直す機会を読者に与えてくれる。

またSNSの効果的な利用方法や、全国各地の地域コミュニティ、地域活性化プロジェクトの紹介など、理論だけでなく、具体的な事例も多く挙げられ、地域おこしの最先端のアイデアを垣間見ることが出来る。

地域に対する情熱と、地域おこしのノウハウの両方を兼ね備えた本書は、公務員一人ひとりの心掛けから地域を変え、そして地域から日本を変えていくという心意が詰まった一冊である。



「なくさみ」文化について



鹿児島県伊仙町長 大久保 明



今年、伊仙町は町制施行50周年を迎え、10月27日に、島外からの出身者600人を含め多くの町民が参加して盛大に記念式典を開催しました。また翌

牛と牛が戦い、逃げたほうが負けです。数秒で決まることも、30分以上戦つこともあります。

28日に、徳之島地域文化情報発信施設「なくさみ館」の落成式と記念闘牛大会を開催、4500人以上の観客が闘牛の圧倒的魅力に熱狂しました。

牛は約400頭いて年20回前後大会が開催され、現在は全島一、中量級、軽量級、ミニ軽量級のクラスがあり各級年3回タイトルマッチを行います。

「なくさみ」の語源は「慰める」が由来です。島ではサトウキビや米の収穫が終わった農閑期に各集落で農家の人々が集まり、闘牛や、踊りを楽しんだりして疲れを癒す習わしがありました。ですから闘牛は「牛なくさみ」であり、島唄を楽しむことは「唄なくさみ」であり、魚を取りお祝いをするのが「ぎゅつなくさみ」です。しかし今では「なくさみ」イコール闘牛になっているようです。

このような闘牛文化は現在、世界では、中国南部、東南アジア、トルコ、ボスニア、ロシアなどで残っています。おそらく人類が牛を家畜としてから自然発生的に世界中にあったと思われる。

日本では現在、岩手県の南部地方、新潟県山古志地方、隠岐島、宇和島、徳之島、沖縄の6地区で行われています。12年前から毎年、全国闘牛サミットを持ち回りで開催し闘牛文化の保存と交流を行っています。

徳之島が誇る宝に長寿世界一、子宝日本一がありますが、島民が最も自慢するのが闘牛です。

なかでも徳之島闘牛は、メジャーリーグであり、人と牛が織り成す関係がなんともいえない魅力を醸し出しています。

徳之島の闘牛は、スペインと違い、

1トンクラスの牛が地響きを立てて

頭でぶつかりあい、大きく太い角を掛け合い戦う姿は迫力満点で、場内は熱気と興奮の坩堝と化します。闘争本能で力尽きるまで戦う牛の姿は感動的ですからあります。また観光客の多くが驚き、喜ぶのは、牛が入場する時と、勝利の瞬間に牛と共に、牛主と応援団、一族郎党、老若男女がワイド、ワイドと太鼓を敲き、狂喜乱舞する姿です。

このように島では全島一牛を持つことは何よりも名誉なことです。おそろく町長よりも名誉なことです。

島の子供は多くが闘牛の世話をし、観戦し喜ぶことがDNAの中に組み込まれています。子供たちは朝、餌をやリ、夕方は掃除をして、大きな牛を引いて県道を散歩させています。この微笑ましい光景を初めて見る人はみんな感激しています。そして大会が近づくと牛に対する愛情の強さのあまり牛小屋で寝泊りする牛主もいるほどです。

このように「なくさみ文化」は徳之島人の性格形成に大きな影響を与えています。都会に出て社会の壁にぶつかった時、牛の粘り強さを思い出し、逆境を乗り越えて成功する人も多くいます。成功した人は闘牛のオーナーになることも少なくありません。

愛牛を丹精こめて育てることは動物愛護の心を育てます。そして出生率が日本一高いのは闘牛を育てるため島に帰り早く結婚することが要因の一つです。

一方、闘牛の持つ負の側面がいつも指摘されています。熱狂するあまり賭博に走るファンが後を絶たない事です。15年ほど前、教育委員会などで青少年の非行の温床になると社会問題になったこともあります。確かに人間の営みには必ず表と裏があります。

しかし闘牛の良い面を強く主張することで、負の面を徐々に解消していくことができるはずです。「闘牛は島の誇るべき素晴らしい文化だ。」と事ある毎に主張し続けることで賭博は減少しています。

今回、国と県の補助事業で「なくさみ館」を建設できたことは闘牛文化、なくさみ文化が重要な観光資源になると高く評価されてきた証だと思っています。

これから大事なことは「なくさみ」の持つオンラインワンの魅力を様々な報道を通じて日本中、全世界へ発信することです。映像を見た人が必ず本物の「なくさみ」を見てみようと思うはず。そして徳之島に来た観光客が、「なくさみ」だけでなく都会では失われた自然、素朴さ、人情、もてなしなどの魅力の虜になり観光交流が拡大する事が価値ある島、徳之島の創造に繋がっていきます。

そのような「夢」を見ながらこれからも信頼される町政を遂行していきたいと思っています。

随筆というよりは「なくさみ」の宣伝になった事をお許しください。